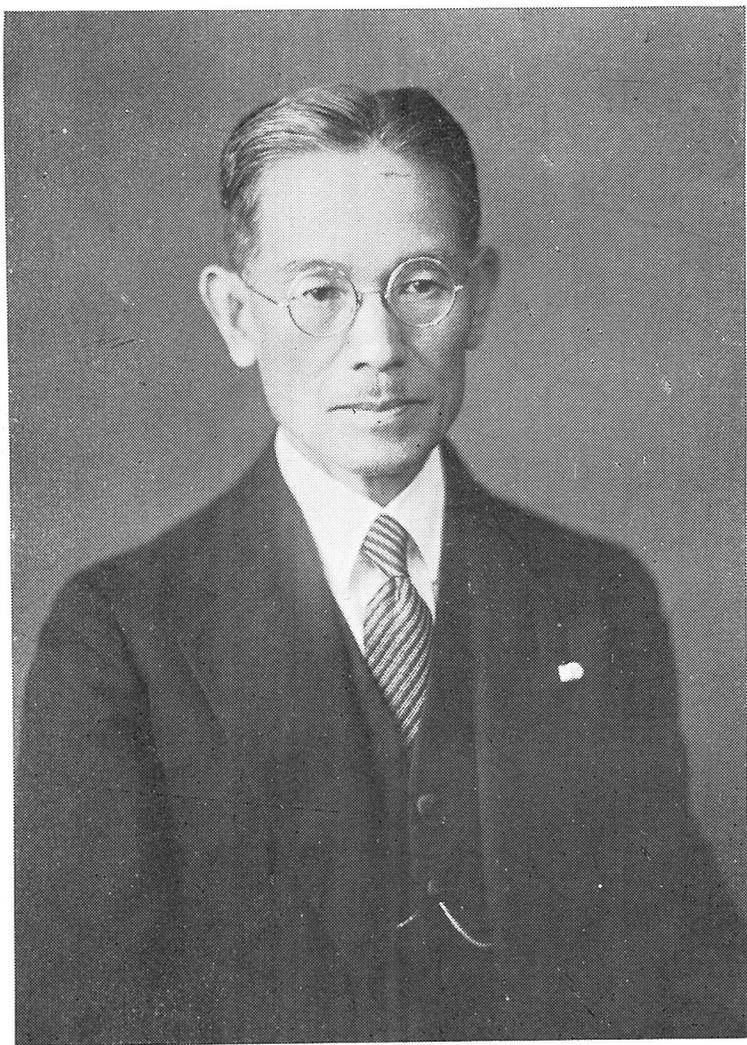




Title	[序]
Description	上原轍三郎の肖像あり
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 11
Issue Date	1945-02
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/11294">https://hdl.handle.net/2115/11294</a>
Type	other
File Information	11.pdf





北海道帝國大學教授農學博士上原轍三郎先生は明治四十五年、東北帝國大學農科大學卒業後直ちに職を母校に奉ぜられてより終始一貫、或は大學行政の樞機に參割せられつゝ、多數の後進を導き、こゝに三十有餘年を経られた。其間、或は附屬農場の經營に當られ、農場今日の基礎を固められ、或は北海道廳囑託として中心事業たる拓殖政策を指導され、更に昭和九年附屬圖書館長、同十二年北方文化研究室主任等を兼ねて研究の基礎機關を固められる等、隠れた功績は大きい。特記すべきは大正十三年農學部に植民學講座設けらるゝや、我國に於ける斯學の先驅高岡熊雄博士の後を享けて擔任教官となられ、我國に於ける最高權威として活動されてゐることである。先生の學風は、その不朽の名著「北海道屯田兵制度」道廳の依囑によつてものとされた「甜菜糖業の發達と其保護政策」並に學位論文「北海道開拓土地制度の研究」等に於て知り得る如く、地味ではあるが緻密、正確を旨とするもので、後進の常に推服おく能はざるところである。我等先生の後塵を拜するもの、一度先生の學恩に報いんとして、在職三十年に當り、論文集の刊行を企てたが、種々の故障により延引今日に及び、而もかゝる體裁で僅に實現を見たことは、誠に汗顔の至りである。然し乍ら集つた諸論文は何れも大東亞建設の基礎的問題にふれたもので、先生の御専門の植民學將來の發展の胚芽たるものが多く存する。此

意味に於て執筆者一同の意のあるところを汲取つていただければこの上もない幸である。

昭和二十年一月

編 輯 者